

資金調達手法（ローンと債券）の特性比較

項目	ローン	債券
1．資金提供者	<ul style="list-style-type: none"> 銀行等の金融機関 	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家 一般投資家（不特定） コミュニティーボンドにおいては、住民等の受益者
2．資金調達規模（金額）	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、債券と比べると多額の調達が容易でないといわれる 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、ローンと比べると多額の調達が容易といわれる
3．調達コスト	<ul style="list-style-type: none"> 一般的には「基準金利＋スプレッド」（事業の進行等に応じた段階的なスプレッド設定を含む。） 	<ul style="list-style-type: none"> 変動金利ベースの調達（発行）もあるが、ローンと比べると固定金利が一般的
4．期間	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、多くの金融機関が対応可能な最長期間は20年程度といわれる 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、ローンよりも長期間の対応の可能性が高いといわれる
5．返済（償還）の柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> 元金均等（元利金等）が原則だが、債券と比べると、柔軟な返済スケジュールの設定が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 分割返済も可能だが、ローンと比べると期限一括返済（償還）が一般的
6．信用補完	<ul style="list-style-type: none"> 外部格付が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 外部格付が可能 海外の事例ではモライシ インシュアランスによりラップされることが多い
7．リスケジュール等の柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> 債権者の承諾が前提となるが、債券と比べると容易とされる 	<ul style="list-style-type: none"> 組み直しも可能だが、ローンと比べると柔軟性には難がある
8．その他	<ul style="list-style-type: none"> 債権者が明確 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には債権者は不特定との考え方。債権者間の意思統一に一定の工夫が必要か